

西穂落雷事故 170人が祈り

57年前に
生徒11人犠牲 深志高慰霊碑前で追悼式

昭和42(1967) 年に北アルプス・西穂 高岳を集団登山中だった松本深志高校2年生が独標で落雷に遭い、生徒11人が亡くなった

遭難事故は1日、発生から57年となり、同校で追悼式が行われた。

この日は慰霊登山も行われ、卒業生や教員、山岳部員らが参加した。弟を亡くした海老名尚子さん(81)「松本市島立」は「いいも悪いも全て思い出。教訓にしていただけとありがたい」と願った。

遭難事故は1日、発生から57年となり、同校で追悼式が行われた。

この日は慰霊登山も行われ、卒業生や教員、山岳部員らが参加した。弟を亡くした海老名尚子さん(81)「松本市島立」は「いいも悪いも全て思い出。教訓にしていただけとありがたい」と願った。

慰霊碑前に約170人が集い、事故の発生時刻に合わせて独標のある西に向かって黙とうをささげた。遭難の

献花に続き、参列者が次々と慰霊碑に手を合わせていった。石川裕之校長はあいさつで、

事故の教訓を次代へ引き継ぎ、県立高校の危機管理の重要性を発信

慰霊碑に手を合わせる参列者

腰原貞利さん(74)「横浜市」は「亡くなった11人の分まで生きなければ、いつも思っている」と話していた。

(鎌倉 希)



慰霊碑に手を合わせる参列者

腰原貞利さん(74)「横浜市」は「亡くなった11人の分まで生きなければ、いつも思っている」と話していた。

(鎌倉 希)